

宮子姫像(右)、JR御坊駅(中央)と本願寺日高別院(御坊市)

熊野古道

みちくさ記

46

道成寺縁起で有名なから田辺にかけての地御坊には、中世に海南域を支配し、紀州最大

の国人だった湯川一族が根拠地とした亀山城と小松原館があったという。JR御坊駅を下り、北西に位置する亀山城址を目指す。その前に道成寺に向かう県道に出ると、宮子

姫の石像があった。道成寺伝によると文武天皇の妃となった宮子姫はこの地に生ま

れ、その縁で紀伊の国石板に描かれた地図に司・紀道成が天皇の命をを受けて701年に寺を創建したという。道成寺には安珍清姫の伝記もあるが、「女人開運を祈るお寺」として、縁起に見られる母の祈りや南紀らしいのどかな風土を感じて、火の恋の清姫より好きなので

やると土塁だけが残り、津国江口で三好長慶に敗れた湯川直光は、山科本願寺の証如上人の助力で亀山城に帰るこ

とができた。その厚恩を深く感じて1550年ごろ、現在の美浜町まで足を延ばすには、吉原に一堂を建立。次

を創建したという。道成寺には安珍清姫の伝記もあるが、「女人開運を祈るお寺」として、縁起に見られる母の祈りや南紀らしいのどかな風土を感じて、火の恋の清姫より好きなので

湯川氏は亀山の頂上に城と本丸を作り、山神社付近に居宅・小松原館を建てた。周辺は城下町としてにぎわったはずなのに、今のJR御坊駅付近はヒニ

に城と本丸を作り、山神社付近に居宅・小松原館を建てた。周辺は城下町としてにぎわったはずなのに、今のJR御坊駅付近はヒニ

1929年に御坊駅が、町の中心地から離れた亀山山麓に設置さ

別院中心に発展 面影今も

す」という作家・有吉佐和子の添え書きがあった。私も同感である。県道から外れて亀山の登山口から簡易舗装された山道を黙々と歩いて約40分、標高117.7mの頂上に着く。本丸のあった敷地の中心に「亀山城址」の石碑が立ち、その奥に城主だった湯川氏

ルハウスや農地が多々あり、閑散としている。街の中心は日高川河口の浜のあたりに移って

舎や日高坊舎の建設を

るることになった際、町長が当時の鉄道省に街の中心にするよう陳情に行ったが失敗したと、土地の人が裏話を教えてくれた。御坊は地名が示すように城下町より寺内町の方がにぎわった事例だが、山城には国人藩主・湯川氏の存在感があふれていた。

ゆず盛る土蔵屋敷の門を閉つ 秦華

亀山城と寺内町(御坊市)

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

